



AMITA

思考するカンパニー

「思考するカンパニー」

東日本大震災以前、「生命は、儚くて脆いもの。人工物は、堅牢で恒久的なもの」と思い込んでいた我々は、震災を契機に、「人工物は、儚くて脆いもの。生命力は、永遠のもの」という真実を知りました。

しかし、水俣病、イタイイタイ病、PCB問題、アスベスト公害、そして原発事故と、この国では未だ文明がもたらした過ちとの格闘が続いています。

自然の生態系は、無駄をつくりだしません。「この世に生を受けたものには、全て役割がある」ことを証明しています。人類の生態系であるこの社会は、未来の子供達の尊厳を守ることができてこそ、存在価値があります。

社会的進化を遂げた人類は、自ら積極的に思考する仲間（カンパニー）であると言えます。

極大化した近代システムが、震災によって一瞬にして崩壊したとき、それに依存してきた人たちの経験は、あまりにも役に立ちませんでした。本当に役に立ったのは、「思考する仲間たち」の経験と実践です。「思考する仲間たち」の智慧と生命力は、無限の資源といえます。

これこそがAMITAの本来の意味なのです。

「国家が裕福になれば、豊かなコミュニティができる」という仮説はくずれ、「豊かなコミュニティの総和は、裕福な国家を超えることができる」という希望へと、世の中は変貌しています。そして、豊かなコミュニティでは、人々の間で互いに共感する豊かな関係性が育まれているのです。

今こそ、自然や人間をコストとして捉える経済優先の文明から、自然や人間を資産に変える価値創造の文明へ！

AMITAグループは、宣言します。

「思考するカンパニー」たちと、「共感資本」を集め、「未来をデザイン」することです！

アミタホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長

熊野英介



同啐啄

【そったくどうじ】
鳥の卵が孵化する際に
雛が内から突くのが「啐^{そつ}」、
親鳥が外から突くのが「啄^{たく}」。
「啐^{そつ}」と「啄^{たく}」が同時になされる時、
卵の殻は割れ、雛が生まれる。

「啐啄同時」と名付けたこの絵は、未来の子供たちの尊厳を守るという意思で未来から現代に向けて「啐」をし、現代から未来に向けて志ある社会が「啄」することで持続可能社会を実現するというアミタグループの思いを表現しています。コラージュ素材には、アミタ（株）が地上の資源と捉えて再資源化している企業からの発成品と（株）アミタ環境認証研究所が認証審査を実施した自然資本商品の画像を用いています。

Our Mission II

智慧と生命は無限である。
環境の変化と感応の変化による
外から内からの関係性の成立が我々を構成する。
何一つ安定する事象はなく、流転の世界を形成する。

私が私であるために、
無限の生命の良関係が必要である。
我々の心の中には、人々が求めているものがある。
求めているものは、未来の子供達の尊厳を守ること。
我々には、その求めているものを形にして、提供する情熱がある。

我々は、宣言する。

生命は価値をつくる資本であることを証明し、
持続可能社会の実現のため循環的關係性構築を第一優先と考え、
自然資本と人間関係資本の増加に資する事業のみを行い、
生命システムの尊厳を守ること。

AMITA

アミタ社名の由来 サンスクリット語 アミターバ 無限の光【智慧】と アミターユス 無限の寿命【生命】その融合として、アミタと命名。無限の智慧と生命を表す。

本当の価値とは何か？
自然資本と人間関係資本の良関係にその答えがある。

アマタグループは、創業からずっと、「本当の価値とは何か？」を、自らに、社会に、問い続けています。そして今、その答えは「共感が支える良関係」だということを確信しています。

人は孤独を恐れます。人間は、産まれてすぐに立ち上がる獣や泳ぎ始める魚とは違い、数年間は一人で生きていくことのできない「未熟」な状態で産まれます。弱いものを助けない、人のために何かをしたい、他者との良関係によって深い満足感を覚えたいという利他的欲求は、人間という生物が次の世代へ命を繋ぐための本能なのです。

そして、人が豊かな人生を送るには、自然資本が必要不可欠です。水が、土が、大気が、空が、鉱物が、動物が、植物が、昆虫が、微生物が、私たちの命を支えてくれています。これらの自然資本を上手に活用しながら、増幅させていく。それが私たちのミッションです。

アマタグループは2011年3月、「自然資本と人間関係資本の増幅に資する事業しか行わない」という宣言を行い、定款に記しました。



関係性の「ゆたかさ」へ

荒廃した森は、鏡に映る私たちの姿。
かもしれない。

古来からこの地に大きな恩恵を与えてきた命豊かな森。人はこの森を、貨幣をもたらず「裕福な森」にしようと切り開き、植林し、木材を製造することで巨大な富を得ました。そのころ人は熱心に山を手入れし、森は明るく保たれていました。

しかし時が流れ、木材の貨幣価値が下がったとき、人は森を捨てたのです。放置された森は暗く荒れ、土は痩せ、生き物は育たず、豊かさも裕福さも失いました。そしてその荒廃は、近隣の里に水害や獣害をもたらしました。

森の持つ価値は木材だけではありません。生み出す水の清らかさであり、多様な植物や獣たちの命であり、訪れるものへの慰め、励まし、癒しであり、里の守護であり、四季鮮やかな眺望であり、神を祀る場所となる清浄荘厳な空気です。

日本の荒廃した森は、貨幣に換算できる裕福さを求めるあまり豊かさを失ってしまった、私たち自身の象徴なのかもしれません。



貨幣的「裕福さ」から

衣食住足りて
不幸な社会を作ってしまった国。

日本は経済的にも物質的にも非常に恵まれた国です。世界の平均寿命68歳に対し、日本は83歳^{※1}。この裕福な長寿国で、今何が起きているのでしょうか。ここ10数年毎年3万人近くの人々が自殺し、人口10万人当たりの自殺者割合は世界8位^{※2}です。家族以外の人間と社交のために付き合わない人の比率はOECD諸国中最も高く^{※3}、社会的孤立が深刻化しています。日米中韓4カ国の高校生を対象にしたアンケートでは、「自分は価値ある人間だと思う」割合が、米中が90%弱、韓国が80%弱であるのに対し、日本は36%^{※4}でした。これらの事実から、自らの存在価値を見失っている国の姿が見えてきます。

資源はどうでしょうか。日本は世界第5位のエネルギー消費国ですが、自給率は僅か4%。化石燃料の輸入額は年間約20兆円に上ります^{※5}。また、食料自給率39%で年間五八〇〇万トンの食料を輸入しているこの国で、年間二〇八万トンもの食料が廃棄され、残飯総額は年間11兆円といわれます^{※6}。

本当の幸せとは、命の価値とは、一体なんでしょうか。

弱い凡人が集まり、良関係社会の実現という非凡を成し遂げる。
それが、アマタグループの未来デザイン事業です。

2011年3月11日に起きた東日本震災とその後の原発事故は、多くの人の心に「どう生きるのか」という問いを突きつけました。

震災後、食べ物は手に入らず、暖も取れず、家族は引き裂かれました。私たちは、自分たちの命がコントロールできない文明の産物に握られていること、生きるために食を得て身を守るといふ動物本来の能力を失っていたことを思い知りました。

しかし、それはこの国の本当の姿ではありません。太古の昔から、私たちの祖先は、自然と直に接し、作物を作り、家畜を育て、炭を焼き、木を切り、井戸を掘り、家を建て、道具を生み出してきました。一人で出来ないことも、互いに助け合って解決してきたのです。

今日でも、人のつながりや絆は、国内外で起こる予測不可能な事態から人々が復興する最大のエネルギー源です。

アマタグループは、この人と人、人と自然が常に近く密接に関係しあう生き方に、課題先進国日本の未来を変えるヒントがあると考えます。遙かなる歴史に習いつつ、互いの存在が互いを豊かにし合う、未来の良関係社会をデザインしていきます。

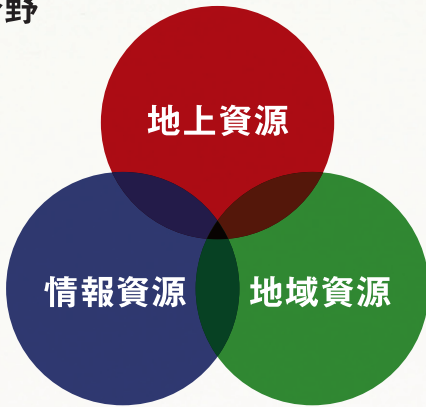
（出典）
※1 世界保健機関（WHO）世界保健統計2012
※2 社会実情データ国録社会的孤立の状況OECD諸国比較2005年データ
※3 財団法人日本青少年研究所 2010年実態調査
※4 財団法人日本青少年研究所 2010年実態調査
※5 財団法人日本青少年研究所 2010年実態調査
※6 農林水産省発表資料

アミタグループは、『持続可能社会の実現』を目指す 未来デザイン企業です。 社会の全体最適解を導き、実行することが私たちの使命です。

社会のニーズは時代と共に大きく変わります。アミタグループは創業以来35年間、「安全かつ安定的に安価な原料が欲しい」「廃棄物を再利用したい」「環境リスクを低減したい」「コンプライアンスを強化したい」「生物多様性を守りたい」「地域を活性化したい」「CSRや環境への取り組みをPRしたい」「天然資源の枯渇を防ぎたい」など、変化し続ける社会ニーズにお応えして事業を拡大してまいりました。

そして今、東日本大震災を経験したこの国で、「人と人、人と自然が互いに関係し、支え合う社会に生きたい」という大きな社会ニーズにお応えするため、これまで培ってきたすべての事業ノウハウを結集し、『持続可能な良関係社会の構築』という真のミッション実現へと挑戦を始めています。

3つの事業分野



情報資源

CSR・環境部門の仕事は「未来のリスクを低減すること」だといえます。人、自然、社会に対する様々なリスクを管理し、低減するため、アミタグループは「情報」をキーワードに環境認証、CSR・環境マーケティング、業務効率化支援などのサービスを提供しています。

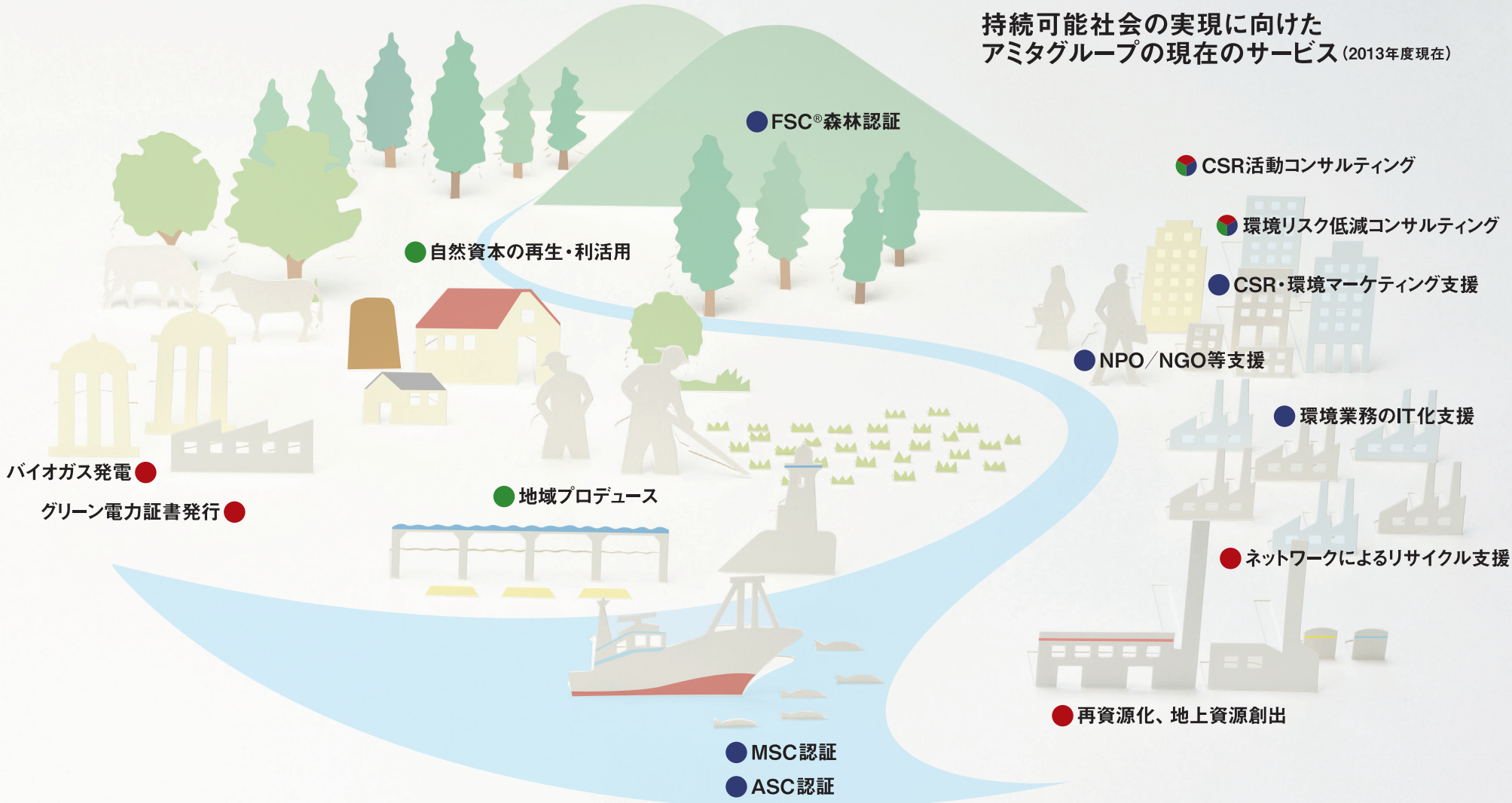
地上資源

アミタグループでは、「無駄なものなどこの世にない」をモットーに、1977年の創業以来、廃棄物を100%再資源化する事業を行っています。また、複雑な廃棄物管理業務の法と実務を全面的にご支援するコンサルティングサービスを実施しています。

地域資源

アミタグループは、産業が発展するほど自然が回復し、人と人とのつながりが深まる社会モデルの構築を目指しています。地域の個性を活かしてその価値を高める地域プロデュースや、都市と地域の人材マッチングなどのサービスを提供しています。

持続可能社会の実現に向けた アミタグループの現在のサービス (2013年度現在)



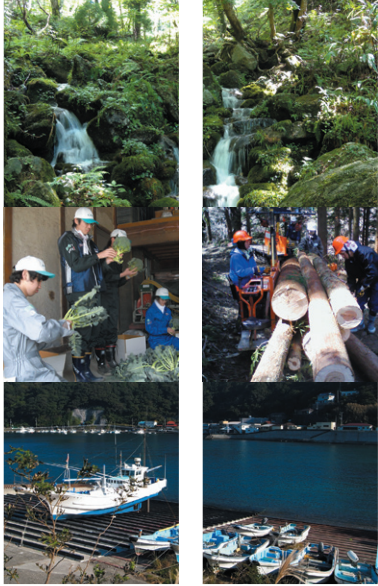
(株)アミタ環境認証研究所は、FSC認定認証機関Soil Association Woodmark及びScientific Certification Systemsと提携しFSC認証審査、MSC認定認証機関として、MSC COC認証審査を、ASC認定認証機関としてASC COC認証審査サービスを提供しています。
FSC®N001887 MSC10128 <http://www.msc.org>



自然を通じた「つながり」の再生へ。

アミタグループは、産業が発展するほど自然や人が傷つく20世紀の工業社会モデルから、産業が発展するほど自然が回復し、同時に人間関係も修復されていくような21世紀の良関係社会モデルの構築を目指します。机上の空論ではなく、企画立案から実行実践、効果測定、継続可能なしくみ作りまで、地域の活性化をトータルプロデュースします。

● 地域資源採掘物語



森・里・海の「もったいない」をなくす多種多様な支援サービス

● 主要なサービス

循環
インフラ
構築

自然産業
創造

環境教育
支援

流通・
販売促進
支援

環境保全型
土地開発
支援

生物
多様性
保全支援

● 実績

地方自治体 | 東京都 京都府 相模原市 智頭町 南三陸町 等

官公庁 | 農林水産省 総務省 水産庁 林野庁 環境省 等

企業 | 自動車メーカー 食品メーカー 等

地方組織 | 漁業協同組合 地域協議会 等

● 地域資源採掘物語

価値創出の歴史 | 地域資源編 |

● 機械ではなく自然の力で課題を解決する企業に (1990年代)

1990年前後、世界各地でタンカーの石油流出事故が相次ぎ、微生物や植物を用いた浄化計画が報道された。「機械の力ではなく自然の力で環境課題を解決できる」ということは、当時、大きな驚きであった。一方、日本では経済発展に集中するあまり環境破壊が進み、さらに地域の過疎問題も深刻化していた。

アミタグループは、自然資本の見直しと持続的な活用なくして豊かな未来はないと確信し、1999年に継続可能な森林管理を認証する事業をスタート。本格的に地域資源の価値創出に取り組み始める。

● 自然の価値を生み出す事業を開始 (2002年～)

「地域に眠る価値を可視化し、地域に誇りと経済的自立をもたらしたい。」との思いから、京都府京丹後市で環境・自然体験学習施設「風のがっこう京都®」の立ち上げを支援。2005年には農林水産業の活性化を支援する「持続可能経済研究所」を開設する。



● 本格的に、里・山・海の「もったいない」を事業化 (2007年～)

各地で支援を行う一方、本格的に自然資本のもったいないを事業化すべく、2007年に山地酪農を改良した「森林酪農」を開始。2009年には岡山県西栗倉村をフィールドとして地域の総合商社を立ち上げる他、各地で都会と地域のマッチング事業をスタートする。都会と過疎に悩む地域の人材コーディネート、短期就労経験支援などを実施。地域の眠れる資源を発掘し、商品化する動きを生む。

● 東北復興の当事者に (2011年～)

全国各地で培ってきた経験とノウハウを結集し、南三陸町において、森・里・海・街の未利用資源を包括的に循環させる持続可能な循環型地域・産業モデルの構築に着手する。

1990

社会の出来事

アミタの地域資源事業トピックス

1991 ● 高知大学人文学部教授 (当時) 大野晃氏が「限界集落」を提唱

1993 ● 日本が生物多様性条約を締結

1999 ● 森林認証サービスを開始

2000

2003 ● 循環型社会形成推進基本計画を閣議決定

2005 ● 京都議定書が発効
● 日本の高齢化率、世界一に

2006 ● 映画「不都合な真実」上映

2007 ● 東京都の労働力人口700万人超、
最下位県の労働力人口32万人に

2008 ● 生物多様性基本法制定・施行

2001 ● アミタ本社を東京に移転

2002 ● 環境教育施設「風のがっこう京都®」設立支援

2004 ● 岡山県西栗倉村、滋賀県高島市で地域再生事業開始

2005 ● 持続可能経済研究所を開設
● 自然産業分野の調査・研究を開始

2007 ● 森林酪農事業を開始

2008 ● 森林のCO₂吸収量算定サービスを開始

2009 ● 都市と地域の人材マッチング事業開始
● 株式会社アミタ持続可能経済研究所設立
● 千葉大学に薬用植物に関する寄附研究部門設置

2010

2010 ● COP10名古屋で開催

2011 ● 東日本大震災
● 世界人口が70億人突破

2012 ● 地域サミット2012 (リオ+20) 開催

2011 ● 復興事業のため、宮城県仙台市に東北オフィスを開設

2012 ● NPO/NGO支援事業を開始
● 南三陸オフィスを開設
● 南三陸町で持続可能な地域づくりの取り組みを開始
● 廃棄物 (発成品) 100%再資源化実証事業を開始

サービス提供事例

お客様のニーズ

アミタグループのソリューション

地域プロデュース事業 (たかしま生きもの田んぼ米)



- 補助金がなくても継続できる環境保全型農業を営みたい。
- 琵琶湖や周囲の生態系と共に豊かになる農業をしたい。
- 地域の資源を活かした商品開発、ブランディングを行いたい。
- 共感のネットワークによる販路開拓と流通サービスを展開したい。

- 地域の生態系調査を支援します。
- 手づくり魚道の設計と設置、有機栽培方法の検討等、生態系保全型農業の実践的な指導を行います。
- 商品設計やデザイン、Webサイト開設等、一連の商品化・販売促進支援を行います。
- 販路の新規開拓、営業同行による流通促進等の支援を行います。

地域プロデュース事業 (地域循環モデル構築)



- 地域にある自然を活かした新たな産業づくり・商品づくりで地域を活性化したい。
- 地域の未利用資源を活用して自立型のエネルギーシステムを構築したい。

- 森・里・海の未活用資源の洗い出しから、商品開発、ブランド作り、市場開発までのトータルプロデュースを行います。
- バイオガス、ペレット燃料システム等、地域のポテンシャルに沿った循環インフラシステムの構築から運営までを行います。

生物多様性ソリューション



- 土地開発における生物多様性へのリスクと損失を測りたい。
- 開発による生物多様性への負荷を最小化したい。
- 工場敷地内や周辺地域の生物相を把握したい。
- 工場敷地内のビオトープで地域の希少生物を保全したい。

- 専門研究員による現場での定性評価を実施します。
- 工場敷地を活用した生物多様性の保全施策を支援します。
- リスクコミュニケーション手法によってリスクを可視化します。
- 開発前よりも生物相が豊かになるプロジェクトの目標設定を支援します。

CSR・環境教育支援



- CSR活動として自社にしかできない体験型環境教育プログラムを開発したい。
- 参加者の募集を依頼したい。
- 社員自身も学び成長する環境教育活動にしたい。

- ワークショップを含めた独自カリキュラムの作成と工程管理を行います。
- 地域住民や農家・NPOとの協働による環境活動を企画支援します。
- 多様なチャネルを活用して告知、集客を支援します。
- 社員が自社理念や周辺環境との関わりを実感できるプログラムの企画を支援します。

膨大な「情報」を再編集し、 新たな価値をデザインする。

アマタグループは1980年代から、廃棄物の成分を元素レベルで解析し、その情報を再編集することで100%再資源化を可能にできました。1990年代には環境専門情報誌の刊行や環境認証の審査事業を開始、さらに2000年以降は環境マーケティング専門部隊の立上げやクラウドを活用した環境業務支援システムの開発等、アマタグループの歴史は、まさに情報の再編集技術による「新たな価値デザイン」の歴史です。

●情報資源採掘物語



価値創出の歴史 【情報資源編】

●環境情報誌の先駆け 「WIEDER」創刊(1992年)

情報は価値ある資源である、という確信のもと、廃棄物関連の国際的な動向や、国内のリサイクル技術・環境法令・環境管理等、幅広いテーマをカバーした会員向け環境情報誌「WIEDER」を発行。97年にはインターネットの普及に先駆けて、WIEDERのWeb版「green-web」を有料サイトとして開設。



●日本初、適切な資源管理の 認証サービスを開始(1999年～)

消費者に正確な情報を伝えるエコラベルに注目し、1999年には適切に管理された森林や林産物を認証するFSC®森林認証の審査、2006年には持続可能な水産物の加工・流通過程のトレーサビリティを認証するMSC COC認証の審査を開始。環境認証サービスのパイオニアとして社会のニーズに応え続ける。



●静脈部門の情報活用を支援する 専門部署を創設(2008年)

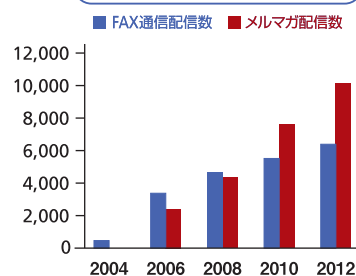
30年以上にわたる再資源化事業と情報再編集ノウハウを集約し、情報を武器とする環境マーケティングサービス、クラウドを活用した情報管理システムの提供等を行う専門部署を立上げる。

●コンプライアンスに必要な知識を評価する 「廃棄物管理者検定」を開始(2011年～)

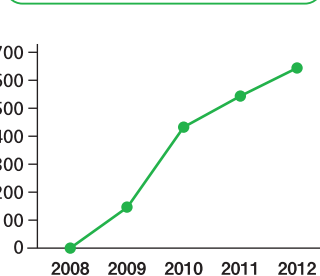
廃棄物管理担当者に必要な知識を定量的に評価する日本で唯一の検定、「廃棄物管理者検定」を開始。担当者の知識・力量を確認・評価することで、継続したコンプライアンスを実現するために必要な習熟度のベンチマークを提供。

社会の出来事	アマタの情報資源事業トピックス
1990	
1992 ● インターネット協会ISOC設立	1992 ● 21世紀を見越した資源リサイクル情報誌「WIEDER」発行
1995 ● LCA日本フォーラム発足	1995 ● LCA日本フォーラム参加
1997 ● 国内携帯電話普及率10% 1998 ● 国内インターネット普及率10%	1996 ● LCAやエコラベルをソリューションとして提案 1997 ● 「WIEDER」Web版「green-web」を有料サービスとして開始 1999 ● 認証サービス開始(FSC®森林認証)
2000	
2002 ● 国内携帯電話普及率50%突破	2001 ● 環境就職の現状を伝える「環境就職ガイドブック」を発行
2004 ● Googleが上場	2004 ● 無料情報サービス「AMITAのリサイクル通信」開始
2005 ● 国内インターネット普及率70%	2005 ● 廃棄物管理業務の解説ビデオ発売 2006 ● 日本の審査機関として初のMSC認証サービス開始 ● 無料情報サービス「おしえて!アマタさんメールマガジン」開始
2007 ● 初代iPhone発売	2007 ● CSR・環境分野に特化したテレマーケティングサービス開始
2008 ● 国内携帯電話普及率90%突破 ● 製紙メーカーによる古紙配合率乖離の問題発生	2008 ● 古紙配合率認証サービス開始 ● CSR・環境業務お役立ちサイト「おしえて!アマタさん」開設
2009 ● Twitterの国内利用者数1,000万人突破	2009 ● 廃棄物管理業務支援システム「e-廃棄物管理」提供開始
2010	
2010 ● ISO26000発行	2010 ● CSRレポートテーマ別比較サイト「CSR JAPAN」開設
2011 ● 東日本大震災 ● Facebookの国内利用者数1,000万人突破	2011 ● 「廃棄物管理者検定」開始 2012 ● 10月に「AMITAのリサイクル通信」100号配信 ● ASC認証サービス開始

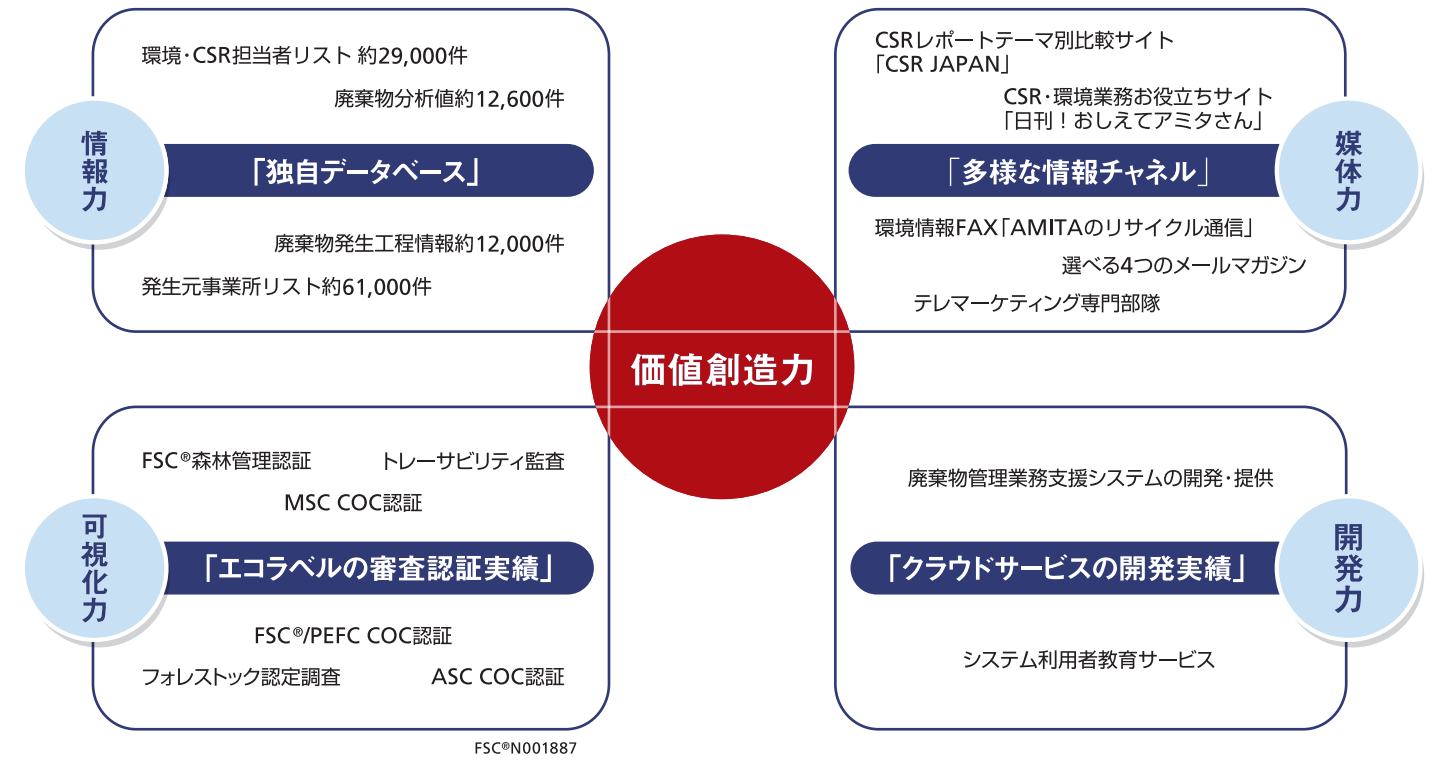
FAX通信・メルマガ配信数



「e-廃棄物管理」導入事業所数



35年間培ってきた情報技術・データベース・情報チャネルを活用し、お客様のニーズに合わせたオーダーメイドサービスを提供します。



サービス提供事例 お客様のニーズ ▶ アマタグループのソリューション

適切な資源管理の「認証」審査



- 認証の取得に興味はあるが、認証に関する情報が少なく、社内で検討ができない。
- CSRの一環として、適切な資源管理を行っている木材や水産物の加工・流通を進めたい。
- あったらしいなと思っている認証制度・サービスがあるが、新しい認証を開発することは可能なのか?



- 環境認証に関する情報を正確かつ迅速にご提供します。
- FSC®/PEFC森林認証・MSC認証・ASC認証・トレーサビリティ監査等、様々な審査を通してお客様のニーズにお応えします。
- ご要望に沿った様々な認証サービスの開発支援を行っています。

廃棄物管理担当者の業務負荷軽減



- 手間の掛かる廃棄物発生量の集計をもっと簡易に行いたい。
- コンプライアンス強化のため、煩雑かつ属人化している許可証やマニフェストの管理業務を改善したい。



- 日々の廃棄物の排出、引き取り管理業務から数量の集計まで、インターネット上で廃棄物情報の一元管理が可能なクラウドサービス「e-廃棄物管理」を提供します。
- 改正の多い廃棄物関連の法律にも対応したシステムで企業のコンプライアンスを支援します。

CSR・環境に特化したマーケティング支援



- 環境サービスの販売促進をしたいが、自社チャネルだけでは十分な施策を実施できない。
- 新商品を開発するために市場調査をしたい。



- 多くの環境ご担当者様にリーチできるアマタグループのネットワーク力を活用した、販売促進支援サービスを提供しています。
- CSR・環境に特化したデータベースや多様な情報チャネルを利用して、効率的・効果的な市場調査を実施します。

無駄のない社会を実現する。 ー資源の消費から資源の創出へー

アマタグループは、企業の使命は社会的課題を解決することだと考えます。私たちは、「この世に無駄なものなどない」という信念のもと、廃棄物を地上の資源と捉えて100%再資源化することで、資源枯渇の問題に真っ向から向き合ってきました。「廃棄物を処理する」のではなく「無駄とされているものを活用して資源を創る」、それが私たちの仕事です。

● 地上資源採掘物語



価値創出の歴史 | 地上資源編 |

● 資源は消費するものという常識を覆し、 新たに資源を生み出す技術を開発（1979年）

「ゴミは使えない」と言われた時代に、セメント工場へ廃棄物を原料として初めて提案。廃棄物が使えない理由を分析し、試行錯誤の末、安全・安定・安価な資源に再生する技術を開発。「これからは資源を使う時代ではなく、創る時代なんだね。」との声をいただく。

● 金属含有廃棄物からの資源製造を開始 （1986年～）

金属原料価格が高騰する中、金属スクラップの回収、売買に着手。しかし、同様の事業を行う企業が増える中、模倣可能な事業は持続的でないと判断し、事業の選択と集中を決断。金属を多く含む廃棄物を独自の調査技術で金属原料に100%再資源化する事業を展開する。これは20年経った今もアマタの主要製品のひとつとなっている。



● 日本最初の 資源リサイクル専用工場を建設（1991年）

量も性状も不安定な廃棄物を安定的に資源として提供できれば必ずニーズはあると確信し、日本で最初の資源リサイクル専用工場を建設。セメント会社はじめ、リサイクル製品のユーザー企業との信頼関係を築き上げ、模倣不可能な再資源化製品の開発と流通ネットワークの構築を実現。

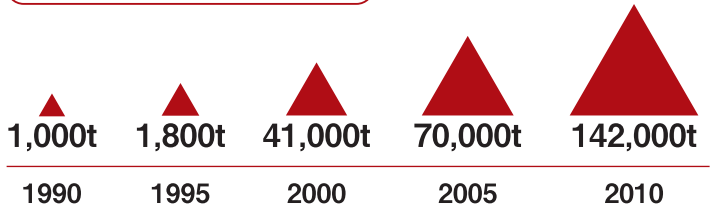


● 環境負荷低減をいち早く提唱（1993年～）

コストだけでなくリスクも低減したいというお客様のニーズを受けて、環境リスク低減を提案する環境ソリューションサービスを開始。「処理会社」ではなく「資源」を扱う企業として、新しい循環のあり方を提案し続けている。

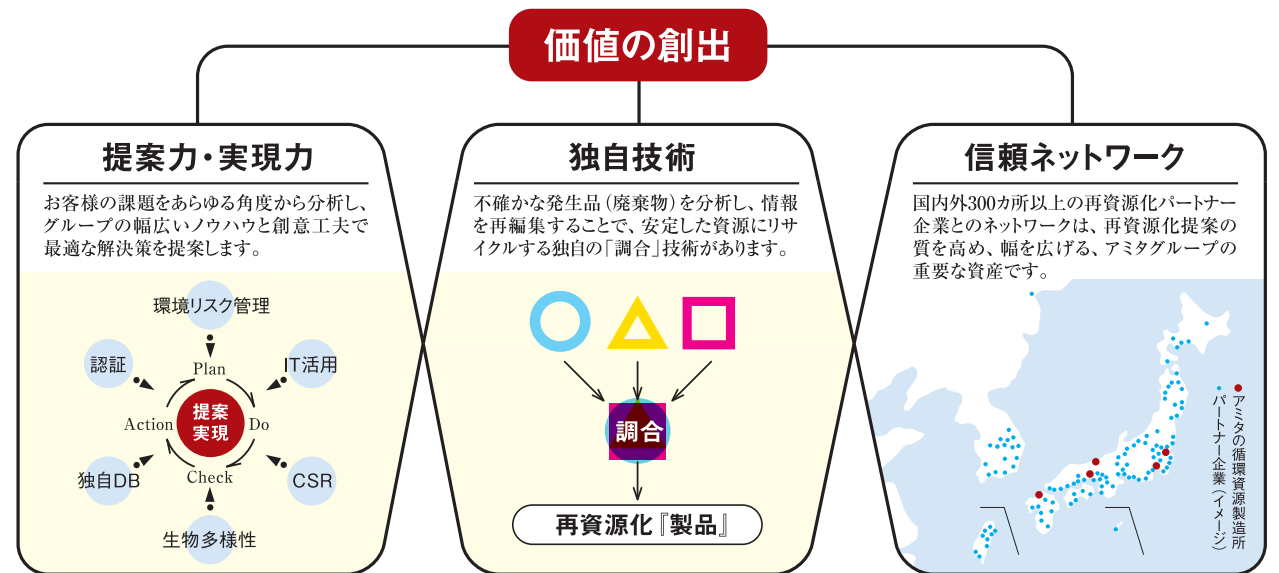
社会の出来事	アマタの地上資源事業トピックス
1970	1970 ● 廃棄物処理法施行 1977 ● スミエイト興産株式会社設立 1979 ● 廃棄物を原料として初提案
1980	1985 ● ブラザ合意 1987 ● 世界人口50億人突破 1986 ● 廃棄物からの金属原料回収を開始
1990	1991 ● バブル崩壊、湾岸戦争 1992 ● 姫路循環資源製造所完成 1993 ● 環境基本法制定 1995 ● 茨城に循環資源製造所を開設 1996 ● 廃棄物を代替燃料として再資源化する「スラミックス®」の特許取得（第2594418号） 1997 ● 姫路第二工場完成
2000	1998 ● 世界人口60億人突破 2001 ● アマタ本社を東京に移転 2004 ● 企業のリスクコンサルティングサービスを本格開始 2005 ● 京丹後市で「NEDO」によるマイクログリッドの実証研究開始
2010	2007 ● サブプライムローン問題 2008 ● 原油価格が史上最高値更新 ● 米国発金融危機 2009 ● 廃製品等の横流しリスクを低減する機能破壊サービスを本格開始 2010 ● 川崎、北九州に循環資源製造所を開設 2011 ● 震災対応リサイクルプログラムの提供 ● 宮城県仙台市に東北事務所（現仙台営業所）を開設 2012 ● 姫路循環資源製造所20周年キャンペーン実施 ● 宮城県気仙沼における災害廃棄物の破碎・選別業務を受託
2010	2011 ● 東日本大震災 東京電力福島第一原発放射能事故 ● 世界人口70億人突破

自社製造所のリサイクル資源生産量（概算）



アマタには、「廃棄物という不安定な原料から安定的に製品を製造し、提供する技術」があります。

この独自技術に提案力とネットワーク力を組み合わせ、お客様に価値あるサービスを提供します。



※アマタグループでは、廃棄物を地上の資源と捉え、「発生品」と呼んでいます。

サービス提供事例

お客様のニーズ

アマタグループのソリューション

- 焼却・埋め立てしている廃棄物を低コストでリサイクルしたい。
- 現状よりも適したリサイクル方法がないか探している。

- 5つの循環資源製造所と国内外の再資源化ネットワークを駆使し、最適なりサイクルをご提案します。海路利用で大幅コスト削減が叶うケースもあります。

再資源化促進

コスト削減

- 処理会社に受け入れを断られてしまった。
- 処理委託先が事故で稼働を停止したため、すぐに他を探したい。

- 処理困難物もアマタの循環資源製造所で成分調整することでリサイクル可能になるケースが多くあります。
- 受け入れ先を複数確保することで、処理先の突然のトラブルに対応できます。

処理困難物の再資源化

受け入れ停止リスク対策

- 安定的に安価な代替原料を調達したい。
- 自社独自の規格に合う代替原料が欲しい。

- 独自の技術で安全・安定・安価な再資源化原料を提供します。
- ご希望の規格に沿ったオーダーメイド原料の製造も可能です。

代替原料提供

オーダーメイド商品開発

- 社名やキャラクターの入った廃製品・廃販促品の横流れを防ぎたい。

- 「嚴重保管→破碎→100%再資源化」という機能破壊サービスで、廃製品、廃販促品等の横流れや不法投棄を防ぎます。

ブランドリスク低減

不法投棄リスク対策

- 少量多品種の廃棄物の処理に困っている。

- 発生品（廃棄物）の相積み・帰り便利用など、ロジスティックネットワークを活かした提案で小口回収を実現しています。

物流の効率化

処理困難物の再資源化

- 廃棄物として処理委託しているものの有価物化を進めたい。

- 35年間培った発生品（廃棄物）情報と再資源化ネットワークを駆使し、有価物利用のルート開拓を支援します。

有価物利用ルートの開拓

コスト削減

● 地上資源採掘物語

会社情報

(2013年3月11日現在)

■代表者	代表取締役会長兼社長 熊野英介
■本社住所	〒602-8024 京都府京都市上京区室町通丸太町上る大門町253番地
■TEL	075-277-0378 (代表)
■FAX	075-255-4527
■資本金	474,920,000円 (2012年12月末日現在)
■従業員数	168名 (連結) (2012年12月末日現在)
■設立	2010年1月4日
■上場市場	大阪証券取引所ジャスダック (証券コード:2195)
■Webサイト	http://www.amita-net.co.jp/

拠点情報

(2013年3月11日現在)

■京都本社	〒602-8024 京都府京都市上京区室町通丸太町上る大門町253番地 TEL:075-277-0378 (代表) FAX:075-255-4527
■東京本店	〒102-0075 東京都千代田区三番町28番地 TEL:03-5215-7766 FAX:03-5215-8260

アマタグループ企業

- アマタ株式会社** ～地上資源で地下資源の枯渇に挑む～
- ▼廃棄物を安全・安定・安価に再資源化
 - ▼徹底した品質管理による安定的なリサイクル製品の提供
 - ▼国内外300ヵ所以上の再資源化ネットワークを活かしたリサイクル支援
 - ▼新商品・新技術の開発
 - ▼グリーン電力証書発行
 - ▼環境業務のIT化支援
 - ▼CSR・環境分野に特化したマーケティング支援
 - ▼企業の環境リスク低減コンサルティング
 - ▼CSR活動コンサルティング

- 株式会社アマタ持続可能経済研究所** ～持続可能社会の実現を科学する～
- ▼地域プロデュース
 - ▼一次産業コンサルティング
 - ▼自然資本の再生・利活用

- 株式会社アマタ環境認証研究所** ～信頼を見える形に、さわれる形に～
- ▼FSC®森林認証・MSC認証・ASC認証の審査※1
 - ▼新たな認証サービスの研究・開発

※1:アマタ環境認証研究所はFSC認定認証機関Soil Association WoodmarkおよびScientific Certification Systemsと提携しFSC認証審査を、MSC/ASC認定認証機関として、MSC/ASC COC認証審査を実施しています。
FSC®N001887 ©1996 Forest Stewardship Council A.C. MSC10128 <http://www.msc.org>

アマタプロパティーズ株式会社

沿革

1977年(昭和52年)	4月	兵庫県姫路市にスミエイト興産株式会社を設立
1987年(昭和62年)	4月	東京営業所を開設
1989年(平成 元年)	4月	スミエイト株式会社に社名変更／兵庫県姫路市に新社屋完成
1992年(平成 4年)	7月	兵庫県姫路市に産業廃棄物の再資源化施設である姫路工場完成
1994年(平成 6年)	4月	中部営業所を開設
	6月	日立化成グループとの合併(50%)で日化スミエイト株式会社を設立
1995年(平成 7年)	5月	茨城県筑西市に日化スミエイト株式会社本社工場完成
	9月	コーポレートミッションを策定
1996年(平成 8年)	12月	産業廃棄物等を代替燃料として再資源化する 「スラミックス®」の特許取得(第2594418号)
1999年(平成11年)	9月	FSC®森林認証サービス開始
2000年(平成12年)	4月	スミエイト株式会社をアマタ株式会社に社名変更 姫路工場をスミエイト株式会社(100%子会社)として分社設立
2001年(平成13年)	10月	「AMITA事業活動」がグッドデザイン賞受賞
	11月	アマタ株式会社、本社を東京に移転
2002年(平成14年)	6月	国連グローバル・コンパクトに参加
2003年(平成15年)	7月	アマタ株式会社、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の 実証研究を受託
2004年(平成16年)	1月	西日本営業所を開設
	10月	アマタ株式会社、スミエイト株式会社・姫路工場を自社化
2005年(平成17年)	4月	アマタ株式会社、子会社スミエイト株式会社を吸収合併 姫路工場を姫路循環資源製造所に名称変更
	7月	持続可能経済研究所を開設
	8月	京丹後循環資源製造所を開設
2006年(平成18年)	6月	アマタ株式会社、大証ヘラクレス市場(2010年10月ジャスダック市場に統合)に上場
	9月	MSC認証サービス開始
	11月	アマタ株式会社、日化スミエイト株式会社を完全子会社化
2007年(平成19年)	4月	アマタ株式会社、子会社日化スミエイト株式会社を吸収合併 茨城循環資源製造所に名称変更
2009年(平成21年)	2月	株式会社アマタ持続可能経済研究所／アマタエコプレーン株式会社／ 株式会社トビムシを設立
2010年(平成22年)	1月	アマタホールディングス株式会社を設立
	4月	株式会社アマタ環境認証研究所／アマタプロパティーズ株式会社を設立 アマタ株式会社、川崎循環資源製造所を開設
	6月	アマタ株式会社、九州営業所／北九州循環資源製造所を開設
	9月	株式会社アマタ環境認証研究所、MSC COC認証機関に認定
2011年(平成23年)	3月	アマタ株式会社、埼玉営業所を開設
	4月	アマタ株式会社、アマタエコプレーン株式会社を吸収合併
	7月	アマタ株式会社、広島営業所を開設 アマタグループ東北オフィス(宮城県仙台市)を開設
	9月	株式会社トビムシの株式を譲渡
2012年(平成24年)	1月	アマタホールディングス株式会社、本社を京都に移転 コーポレートミッションを改定 アマタ株式会社、千葉営業所を開設
	3月	アマタホールディングス株式会社、南三陸オフィスを開設
	10月	株式会社アマタ環境認証研究所、大阪事務所を開設 株式会社アマタ環境認証研究所、ASC COC認証機関に認定
2013年(平成25年)	1月	アマタ株式会社、浜松営業所を開設
	3月	アマタ株式会社、循環資源創造センター東海を開設

アミタ株式会社

■本社

〒102-0075 東京都千代田区三番町28番地
TEL:03-5215-8255 (代表) FAX:03-5215-8256

■循環資源技術チーム／循環資源開拓チーム
西近畿営業チーム／姫路事務所／姫路営業所

〒672-8079 兵庫県姫路市飾磨区今在家3-105-2
TEL:079-234-5678 FAX:079-234-8406

■東北営業チーム 仙台営業所

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1
仙台第一生命タワービルディング 11階
TEL:022-217-1517 FAX:022-265-0161

■関東営業チーム 埼玉営業所

〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤1-3-10
日本生命浦和ビル 2階
TEL:048-815-7090 FAX:048-815-7091

■関東営業チーム 千葉営業所

〒260-0027 千葉県千葉市中央区新田町5-10
わかちく千葉ビル 8階
TEL:043-204-7333 FAX:043-204-7332

■関東営業チーム 川崎営業所

川崎循環資源製造所
〒210-0867 神奈川県川崎市川崎区扇町9-1 三井埠頭(株) 構内
TEL:044-328-6260 FAX:044-328-6261

■中部営業チーム 浜松営業所

〒430-0935 静岡県浜松市中区伝馬町312-32
浜松シティビル 7階
TEL:053-451-7211 FAX:053-451-7212

■中部営業チーム 名古屋営業所

〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内3-6-27 EBSビル 5階
TEL:052-961-5601 FAX:052-961-5602

■関西営業チーム 大阪営業所

〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-9-1
肥後橋センタービル 7階
TEL:06-6444-3883 FAX:06-6444-0690

■西日本営業チーム 広島営業所

〒732-0824 広島県広島市南区の場町1-2-16
グリーンタワー 7階
TEL:082-568-5385 FAX:082-262-6760

■西日本営業チーム 九州営業所

北九州循環資源製造所
〒808-0021 福岡県北九州市若松区響町1-104-10
TEL:093-752-5700 (営業) 093-752-5701 (製造)
FAX:093-752-5702 (共通)

■姫路循環資源製造所

〒671-1242 兵庫県姫路市網干区浜田1287-9
TEL:079-272-4333 FAX:079-272-4334

■茨城循環資源製造所

〒308-0851 茨城県筑西市下江連1233-2
TEL:0296-20-2424 FAX:0296-28-3474

■京丹後循環資源製造所(京丹後市エコエネルギーセンター)

〒627-0143 京都府京丹後市弥栄町船木小字キコリ谷301-1
TEL:0772-65-0016 FAX:0772-65-0017

■循環資源創造センター東海

〒443-0036 愛知県蒲郡市浜町14番地 浜町ビルディング205号
TEL:0533-68-9410 FAX:0533-68-9411

■海外事業チーム

〒102-0075 東京都千代田区三番町28番地
TEL:03-5215-8327 FAX:03-5215-8278

■総合環境ソリューションチーム(東京)

〒102-0075 東京都千代田区三番町28番地
TEL:03-5215-8166 FAX:03-5215-8505

■総合環境ソリューションチーム(飾磨)

〒672-8079 兵庫県姫路市飾磨区今在家105-2
TEL:079-234-5678 FAX:079-234-8406

■エコ・プレーンチーム

〒331-0823 埼玉県さいたま市北区日進町2-1864-10
TEL:048-653-9174 FAX:048-782-4270

株式会社アミタ持続可能経済研究所

■東京本社

〒102-0075 東京都千代田区三番町28番地
TEL:03-5215-8266 (代表) FAX:03-5215-8505

■京都オフィス

〒602-8024 京都府京都市上京区室町通丸太町上る
大門町253番地
TEL:075-255-4526 FAX:075-255-4527

■仙台オフィス

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1
仙台第一生命タワービルディング 11階
TEL:022-217-1517 FAX:022-265-0161

■南三陸オフィス

〒986-0775 宮城県本吉郡南三陸町志津川字廻館58-12
サンライズヒルズ I-102
TEL:0226-47-4055 FAX:0226-47-4056

株式会社アミタ環境認証研究所

■本社

〒102-0075 東京都千代田区三番町28番地
TEL:03-5215-8326 (代表) FAX:03-5215-3040

■大阪事務所

〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-9-1
肥後橋センタービル 7階
TEL:06-7654-6882 FAX:06-6444-0690

アミタプロパティーズ株式会社

■本社

〒102-0075 東京都千代田区三番町28番地
TEL:03-5215-7766 (代表) FAX:03-5215-8260

アミタグループは、 全国の延べ24,500名以上の CSR・環境ご担当者様とつながっています。

廃棄物関連の法改正情報から地域活性化情報、森林認証・水産認証等環境ラベル、CSR・生物多様性の最新動向まで。ご担当者様のニーズに合った情報を無料で提供しています。

地域資源	情報資源	地上資源
メールマガジン「CSR JAPANニュース」 CSR推進・ISO26000・生物多様性等		
メールマガジン「おしえて! アミタさん」 環境/廃棄物管理実務・法令順守等		
メールマガジン「持続研通信」 一次産業支援・地域活性化等	メールマガジン「AIECニュース」 エコラベル・環境認証等	FAX通信「AMITAのリサイクル通信」 再資源化・廃棄物管理実務・法令順守等

「分かりにくい、集めにくい」情報を「分かりやすく、タイムリー」にお届けします。
CSR・環境課題解決のパートナーとして、アミタグループをぜひご活用ください。

(大手製造メーカー環境ご担当者様)

サービス提供実績

ご利用者の声

(大手製造メーカー環境ご担当者様)

- FAXのリサイクル通信は回覧し、ファイリングしています。
- 法改正情報や実務の間違えやすいポイント等が1枚にまとまっていてとても便利です。

(大手飲料メーカー環境ご担当者様)

- メールマガは、必要部分をコピーしてマニュアルに引用する等しています。

CSR・環境の
ご支援実績

3,500事業所
以上

CSR・環境
関連セミナー
参加者実績延べ

8,900名
以上

無料情報
サービス配信
実績延べ

24,500名
以上

主要な運営サイト	ソーシャルメディア
アミタホールディングス株式会社 公式サイト http://www.amita-net.co.jp/	ツイッター @amitaism Facebookページ「アミタホールディングス株式会社」
CSR・環境業務お役立ちサイト おしえて! アミタさん http://www.amita-oshiete.jp/	ツイッター @amitasan
CSRレポートテーマ別比較サイト CSR JAPAN http://www.csr-japan.jp/	ツイッター @CSR_JAPAN Facebookページ「CSR JAPAN」

お申し込みはFAXかWebで!

FAX: 03-5215-8505

Web: で検索してください。

下記のすべての項目にご記入の上、
お送りください。

ご希望のサービスを
お選びください

☐

FAX通信
「AMITAのリサイクル通信」

☐

メールマガジン
「おしえて! アミタさん」

☐

メールマガジン
「CSR JAPANニュース」

☐

メールマガジン
「持続研通信」

☐

メールマガジン
「AIECニュース」

ふりがな
ご所属名

部署名

役職

ふりがな
氏名

TEL

FAX

住所 〒

E-mail

お問い合わせ先: アミタグループお問い合わせ担当 東京都千代田区三番町28番地 ☎ 0120-936-083 ecobrain@amita-net.co.jp

ご記入いただいた住所やE-mailアドレス等に、事務連絡のほか、当社グループより各種ご案内(商品・サービス・セミナー等)をさせていただく場合がございます。また、お客様の承諾なく、お客様の個人情報が第三者に開示・提供されることはありません。個人の方や当社グループと競合する可能性のある方への配信はお断りさせていただく場合がございますのでご了承ください。